



『中谷字吉郎随筆集』

中谷字吉郎 [著]；樋口敬二編 岩波書店／岩波文庫

本 館	請求記号：X/080/I95G/Nak	資料ID：700671290
神田分館	請求記号：X/080/I95G/Nak	資料ID：700183684

商学部教授 太田 和博

宮内庁によると、2022年10月20日に米寿を迎えた上皇后美智子さ

なかにうきちろう

まは、朝食後のご夫婦での音読として、寺田寅彦と中谷字吉郎の随筆に取り組んでいたそうである。寺田と中谷は物理学の師弟関係にあった。中谷は世界で初めて人工雪の生成に成功するなど、低温極地研究の先駆者であり、「雪博士」とも称されている。

一方で、寺田は夏目漱石の弟子もしくは友人として知られており、随筆家としても有名である。寺田の薫陶を受けた中谷も戦前から優れた随筆家として評価されていた。本書は、『随筆集』と題されてはいるが、一部のみを選びすぐった『選集』である。

随筆家 (essayist) は詩人 (poet) と並んで、欧米では最上級の文化人とされている。寺田も中谷も物理学者として世界に冠たる業績を成しながら、科学的な思考の重要性を一般人に平易に解く重要性を意識しており、それが随筆の各所に現れている。

随筆なのですべてを読む必要はないし、内容が広範囲にわたっているので、どれを読むべきか、どれが面白いかを皆さんに指し示すことは難しい。とはいえ、読むためのガイドはするべきであろう。

『随筆選集』であり、その編集は樋口敬二が行っている。樋口は寺田と中谷の弟子でもあったので、その選と編集（つまり、並べ方）は秀逸である。まずは、樋口による巻末の解説を読むとよい。本書は4つのパートに分かれているから、樋口の解説に従って興味があるところから読めばよいであろう。ただ、良く編集されており、I部とII部で中谷の人となりを知り、III部とIV部で科学と社会のかわりに関する中谷の思考を探る構成になっているので、冒頭から順に読むのもお薦めである。

また、戦前・戦中（太平洋戦争）の随筆もあり、時代背景を意識するべきである。そのために各随筆の末尾にある公表年月日を確認してから読むのが良い。

読後、先入観を排して物事を観察すること、そして自ら考えることの重要性を知ることになるであろう。